

さぶりめんと

2014-Sep.

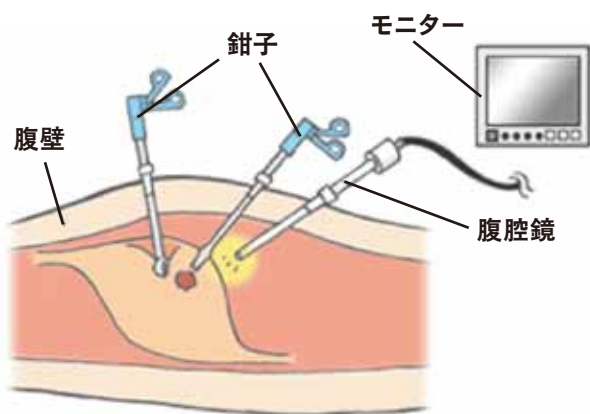
No. 30

胃がんの最新治療

消化器外科 谷口 博一

胃がんはまだまだ症例数の多い疾患ですが、その治療成績はすいぶん向上してきており、内視鏡(胃カメラ)で治せる胃がんも増えてきています。当院では、特に早期胃がんの場合、外科や内科の医師と合同で協議し、最善の治療法を選択できるようにしています。内視鏡治療が困難であれば手術となりますが、早期の場合は**腹腔鏡手術**を行っています。これは従来のようにお腹を大きく切るのではなく、5~10mmの小さな穴からカメラや鉗子(組織を持つ道具)を入れて、モニターを見ながら行う手術です。傷が小さいので痛みが少なく、術後の回復も早くなりました(図1)。胃の機能を温存するような手術も、早期胃がんに対しては積極的に行っています。

図1 腹腔鏡手術



一般的な開腹手術の手術創



腹腔鏡手術の手術創

図2 審査腹腔鏡

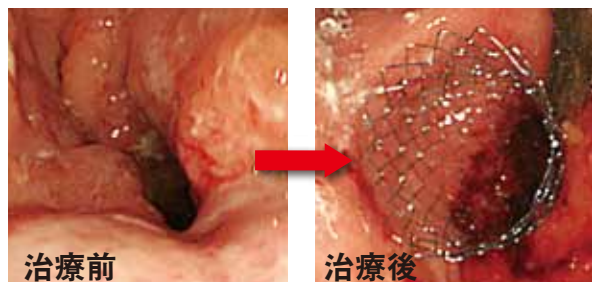


CTでは分からなかったがんが発見できた

一方、進行胃がんの場合、手術だけではなく化学療法(抗がん剤治療)も組み合わせた治療が必要となります。抗がん剤については新しい薬も増えて、入院せずに外来で行えるものも多くなりました。また、副作用についても制吐剤(吐き気止め)などの進歩によってすいぶん抑えられるようになりました。

腹腔鏡でお腹の中を実際に目で見て正確ながんの状態を把握する**審査腹腔鏡**を積極的に行い、より適切な治療法の選択と迅速な治療の開始を心がけています(図2)。その他、胃がんのために食事が通らなくなっている患者様には、筒状の金属を入れて狭くなっている部分を広げる**ステント治療**をお腹を切らずに内視鏡で行っています(図3)。早期がんから進行がんまで幅広く、質の高い最善の医療を行っております。ご不明な点は、当院 上部消化器外科外来までご相談ください。

図3 ステント治療



治療前

治療後

腫瘍のため狭くなっていた胃の出口付近が、ステントで広げられ再び食事が可能となった

独立行政法人 労働者健康福祉機構 **関西ろうさい病院**

尼崎市稲葉荘3-1-69 TEL 06-6416-1221(代)

HP <http://www.kanrou.net/>ブログ <http://www.kanrou.net/blog>

発行人 林 紀夫 編集人 関根 久芳

